

## 自然との共生について

### 【調査の目的】

県では、**人と自然が共生する社会（※1）**づくりを進めています。そこで、行政だけではなく、県民の皆さんや、企業、NPO・ボランティア等の多様な主体によって**生物多様性（※2）**の保全と持続可能な利用に関する施策を推進するため、平成25年3月に「福岡県生物多様性戦略」を策定しました。この福岡県生物多様性戦略を改定し、令和4年3月に「福岡県生物多様性戦略2022-2026」を策定する予定です。

つきましては、県民の皆さんに、県の生物多様性保全の取組がどこまで浸透しているか、また、生物多様性保全についての考え方をお聴きし、戦略推進の参考資料とさせていただきます。

#### ※1 人と自然が共生する社会（自然共生社会）とは

人と自然（生きもの）が共に生き、自然からの恵みを持続的に受け続けることができる社会

#### ※2 生物多様性とは

私たちの住む世界には、森林、草原、川、海など多様な自然があり、その中で、哺乳類、鳥、昆虫、魚など多種多様な生きものが、「食べる－食べられる」の関係をはじめ、様々な「つながり」を持って生きている状態

(環境部自然環境課)

回答者数： 360 人

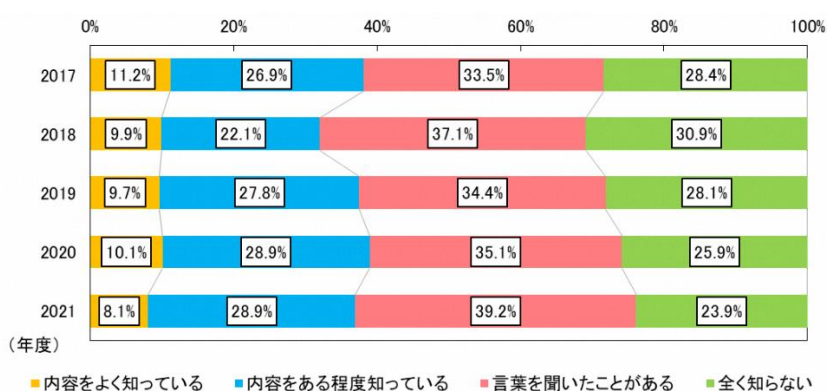
**問1** あなたは、「生物多様性」という言葉を知っていますか。

次の中から【1つだけ】選んでください。

項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計	割合
内容をよく知っている	7	5	4	2	6	4	1	29	8.1%
内容をある程度知っている	7	15	20	24	11	20	7	104	28.9%
言葉を聞いたことがある	2	18	40	29	22	19	11	141	39.2%
全く知らない	1	10	17	19	22	10	7	86	23.9%

※「内容をよく知っている」と「内容をある程度知っている」の合算を生物多様性の認知度として扱っている。

<福岡県における生物多様性の認知度の推移>



**問2** 生物多様性に配慮した行動として、あなたはどのようなことを行っていますか。

次の中から【2つまで】選んでください。

項目	件数	割合
旬のもの、地元のものを選んで購入する	196	30.1%
節電やアイドリングストップなど地球温暖化対策に取り組む	158	24.2%
生きものを最後まで責任を持って育てる	116	17.8%
身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう	65	10.0%
生物多様性や環境に配慮している企業の商品やサービスを優先的に選ぶ	41	6.3%
自然や生きものについて、家族や友人と話し合う	35	5.4%
生物多様性に関わる観察・調査・保全・再生などの活動に参加する	21	3.2%
エコツアー（ガイドによる自然体験）に参加する	9	1.4%
特に行いたいとは思わない	4	0.6%
その他	7	1.1%

<特に行いたいとは思わないを選んだ理由>

- ・よくわからないから 等

<その他の回答>

- ・庭を自然豊かにしている。蜻蛉やカエル、てんとう虫、チョウ、蜜蜂など生き物が来たり住んだりしやすい環境にしている。また、自分が排出する二酸化炭素を相殺するために木を植えている。木のおかげで直射日光が家に当たらず省エネになる
- ・環境問題を考える講座を開催しているが、そういった講座やラブアースなどに参加してほしい 等

**問3** 自然共生社会の実現のためには、行政だけではなく、県民、NPO、企業等の多様な主体による取組が必要になってきます。あなたは、これまでに自然環境や生物多様性の保全活動に参加したことがありますか。次の中から【1つだけ】選んでください。

項目	合計	割合
NPOなどの自然環境保全団体に属しており、定期的に活動を行っている	4	1.1%
団体には所属していないが、NPOなどの自然環境保全団体の活動に時々参加している、または参加したことがある	33	9.2%
保全活動に参加したことはないが、身の回りにある自然に興味を持ち、親しんでいる	130	36.1%
保全活動への参加や身の回りにある自然とのふれあいに興味を持っているが、参加の方法がわからない、またはきっかけがない	142	39.4%
興味がないので参加したいとは思わない	46	12.8%
その他	5	1.4%

<その他の回答>

- ・自然保護団体に定期的に寄附をしている
- ・勤務先でクリーンアップ活動(地域のお掃除活動)に参加したことがある 等

**問4** 県が実施している生物多様性保全のための取組について、知っているものはありますか。知っているものを【全て】選んでください。

項目	件数	割合
福岡県レッドデータブック	90	18.2%
福岡県の希少野生生物	51	10.3%
外来種防除リーフレット	39	7.9%
福岡県侵略的外来種リスト	24	4.9%
福岡県生物多様性戦略	21	4.3%
福岡県希少野生動植物種の保護に関する条例	19	3.8%
地域環境協議会	17	3.4%
県民行動リスト	13	2.6%
その他	1	0.2%
いずれも知らない	219	44.3%

**問5** 自然共生社会の実現を目指していく上で、県が重点的に取り組むべきであると思うことは何ですか。あなたが思う【上位3つ】を選んでください。

項目	件数	割合
身近な野生生物（ホタル、ツバメなど）や里地里山といった身近な自然の保全	232	23.6%
環境教育の充実	152	15.5%
希少な野生動植物やその生息地の保全・保護	143	14.6%
環境に配慮した公共工事の推進	127	12.9%
野生鳥獣（シカ、イノシシなど）や外来生物による被害の防止	125	12.7%
生物多様性に関する各種情報の発信・提供	85	8.7%
生物多様性の保全に取り組む民間団体への支援	59	6.0%
生物多様性保全の取組を進めるための科学的なデータの集積や調査・研究	46	4.7%
その他	5	0.5%
分からない	7	0.7%

<その他の回答>

- ・小学校から高校までの過程で、生物多様性についてしっかりと教育を行うことが必要
- ・生物多様性に関する情報のひとつに、生物多様性が失われた場合に身近に起こる問題（旬のものがなくなり食べられなくなる等）やこのまま自然共生社会の実現がスムーズにいかず環境破壊が進むことで起こりうる生活の変化など、私達にとってデメリットになることを具体的に教えてほしい 等

**問6** 今後、生物多様性の保全等について、地域での自主的な取組を推進するために、県はどのようなことを支援したほうがいいと思いますか。次の中から【1つだけ】を選んでください。

項目	件数	割合
誰でも取り組めるような生物多様性保全活動のためのリーフレットを作成し、周知・配布する	129	35.8%
地域の活動に対して資金等を助成する	75	20.8%
生物多様性に精通した人材を育成するための研修会を開催する	53	14.7%
市町村やNPO・事業者等に対して生物多様性保全活動への助言や技術指導を行う	49	13.6%
地域の活動に対して生物多様性に精通した人材を紹介・派遣する	44	12.2%
その他	10	2.8%

<その他の回答>

- ・長期的な視点から、学校教育に力を入れるとよい。
- ・小・中学校のカリキュラムに入れる、夏季休暇等の共通課題とするなど、若者への啓発を行うことで、家庭でも話題となり、大人の啓発にもつながる。
- ・親子で自然に触れるイベントを開催し、楽しみながら学べる企画をするのがよい。

・セミナー、YouTube での配信、福岡県庁 LINE での配信 等

**問7** 自然との共生について、これまでの設問以外に意見がありますか。

(自由記述・主な意見)

- ・未来を担う若者に対する環境問題の教育をぜひとも強化してほしい。
- ・河川の護岸工事など自然に配慮した工法を検討してもらいたい。
- ・県民の意識や考え方をより高めていき、共生に向けた県全体での水準の底上げが必要。
- ・リーフレットを各自治会まで落とし込んで配布し多数の方に情報提供したほうが良い。
- ・若い世代が農業をする機会を設けるのはどうか。
- ・外来種が増え、気候変動も激しく甚大な災害も増えてきた。我々も SDGs や環境対策等、出来ることをしっかり考えて環境対策に注視していかなければならないと痛感する。
- ・「生物多様性の保全」などについて、県民が理解し一人ひとりが出来ることを確実にやっていくことが大切。そのための広報や具体的な体験等の機会を増やすことが重要。
- ・保全活動をしている団体を取り上げ、取材して、広く、紹介すると思う。
- ・県としてこのように取り組んでいるということをもっと多くの人に知らせる必要がある。 等